

那須野が原博物館 中期目標項目・評価シート
第2期(平成29～令和3年度)

令和2年度

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	3年度目標値(5か年)	期間実績合計	2年度目標値	2年度実績	備考	
1. 収集・保存・活用								
1-1 資料の収集	収集方針をもとに採集・寄贈・購入等を通して積極的かつ継続的に資料を収集します。	新規収集資料件数	採集・購入他(全分野)	1,460件	3,187件	292件	2,161件	
			1.歴史	400件	280件	80件	23件	百村文書、塩原・那須温泉資料ほか
			2.民俗	25件	49件	5件	0件	
			3.考古	0件	0件	0件	0件	
			4.美術	10件	16件	2件	3件	銅版画
			5.文学	25件	28件	5件	1件	塩原関係作品
			6.地学	50件	36件	10件	1件	復元模型
			7.植物	150件	1,351件	30件	1,321件	市内採集措葉標本
			8.昆虫	750件	1,312件	150件	771件	トンボ、チョウほか
			9.動物	50件	115件	10件	41件	鳥類3件、哺乳類36件、爬虫類2件
			寄贈(全分野)	—	8,367件	—	2,192件	歴史2,026件、民俗21件、文学1件、美術23件、昆虫121件
		合計	—	11,554件	—	4,353件		
収蔵資料総件数	—	89,763件	—	89,763件	R3.3.31現在 歴史24,603件、民俗6,137件、考古4,284件、文学84件、美術3,952件、地学695件、植物6,400件、動物43,608件			
新規収集図書件数	購入	150件	72件	30件	13件			
	寄贈	—	—	—	296件			
収蔵図書総件数	—	17,396件	—	17,396件				
1-2 資料情報の公開	収蔵資料データベースの公開を行い、研究者等による利用を促進します。	収蔵資料情報公開件数	5,000点	5,206点	1,000点	1,293点	実績：歴史339件、美術231件、文学25件、昆虫698件 総公開件数：31,247件	
1-3 資料の適切な管理	収蔵庫・展示室を良好な環境に保ち、燻蒸により資料の安全な保存を図ります。	燻蒸回数	那須野が原博物館	5回	4回	1回	1回	
			附属施設	5回	4回	1回	1回	旧日新の館
	資料の修復等を行い、資料の保存状態を改善します。	資料の修復	歴史資料	25件	27件	5件	0件	
			考古資料	15件	5件	3件	0件	
		美術資料	25件	16件	5件	0件		
		常設展示	—	—	—	1,027件		
		企画展示	2,500件	2,312件	500件	145件	縄文展145件	

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	3年度目標値(5か年)	期間実績合計	2年度目標値	2年度実績	備考	
1-4 資料の活用	常設展示・企画展示等による資料の利用・公開を促進します。	展示利用数	トピックス展他	750件	2,182件	150件	1,443件	収蔵資料展示1,198件(日本画展20件・昆虫展1,038件・写真展140件)、トピックス展138件、なはくAS21件、日本遺産47件、図書館10件(三木展3件・恐竜展7件)、ギャラリー展29件
			黒磯郷土館	—	1,656件	414件	414件	
			日新の館	600件	245件	120件	0件	H31.3.31施設廃止
	関谷郷土資料館	—	1,440件	720件	0件	H31.3.31施設廃止		
	収蔵資料を他の博物館・美術館等へ貸し出します。	貸出資料数	—	257件	—	60件	化石15件、歴史3件、民俗1件、考古24件、美術17件	
【特記事項】	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、備品購入費が減額されたため、歴史・民俗・文学・地学の購入資料件数及び図書の購入件数が目標値を下回った。一方、教育普及事業が中止となった代わりに資料の整理業務を重点的に行ったため、植物・昆虫・動物の採集資料の登録件数が増加した。資料の公開については、歴史(塩原温泉絵葉書・計339件)・美術(錦絵・計231件)・文学(小説や随筆作品など・計25件)・昆虫(チョウ類・計698件)において実施した。資料の修復については、新型コロナウイルス感染症の影響により、予算が確保できなくなり、予定していた修復事業を全て取りやめた。資料の活用については、企画展が全て中止となったため、企画展示での資料の活用は目標値を下回ったが、企画展の代わりに実施した収蔵資料展示やギャラリー展などにより、「トピックス展他」の目標値は大きく上回った。収蔵資料の貸出先は、群馬県立自然史博物館・神栖市歴史民俗資料館・栃木県立美術館・那珂川町なす風土記の丘資料館・栃木県立博物館である。</p>							
【課題・改善点等】	<p>資料の収集は、今後も採集・購入・寄贈等により継続的に収集していく必要があるが、収蔵庫のスペース不足に伴う資料の安全な保存環境の確保や予算の確保が重要な課題となっている。また、人員不足により、今後資料の整理業務が滞る可能性があるため、早急に適切な人員の配置が求められる。令和3年度からは、修復事業を再開し、修復すべき土器や美術作品などを計画的に修復していく必要がある。資料の公開については、新型コロナウイルス感染症対策としてもインターネットを活用した情報の公開が求められるため、今後も積極的な情報の公開に努める。資料の活用については、引き続き企画展示やトピックス展、なはくアートスポット等において、収集した資料を積極的に利用・公開していく。</p>							
【外部評価委員 所見】	<p>当年度は、新型コロナウイルスによる国難の1年であり、備品購入費等の減額はやむを得ないことであるが、博物館の事業・活動を展開するうえで、資料収集を行うことは最も重要なことであり、新年度においてはこれまでどおりの計画に基づいて、積極的に収集活動を行っていただきたい。</p> <p>資料の活用においては、企画展の中止による収蔵資料展示やギャラリー展により、目標値を大きく上回ったことは大変に喜ばしいことである。インターネットを活用した情報やデジタル資料の公開では、現在の人員数で対応しきれない現状は理解しているが、早急に適切な人員数を配置して時代に即した対応に努められたい。また、収集された資料が博物館として適切、且つ安全に保存されるべく、収蔵庫の増設にも努められたい。</p>							
2. 調査研究								
2-1 調査研究活動の推進	地域に関するテーマや博物館活動に関する調査研究を行います。	那須野が原博物館紀要発行回数	5回	4回	1回	1回		
	研究成果を広く市民に還元します。	学術論文の執筆数、発表会や講演会の回数	50回	79回	10回	7回	論文4件、講演3件	
【特記事項】	<p>那須野が原博物館紀要第17号を発行した。紀要の掲載内容は自然分野が2件(動物1件・植物1件)、人文分野が3件(歴史2件・美術1件)である。論文は、紀要で2件(歴史)、研究雑誌で2件(昆虫1件・美術1件)執筆した。講演は、講義形式で2件(歴史・化石)、見学会形式で1件(歴史)行った。新型コロナウイルスの影響により、地域研究発表会が中止になったほか、研究発表の機会や他の施設・団体による講師派遣依頼が大幅に減少したため、研究成果の還元は目標値を下回った。また、学術情報検索サイト「J-STAGE」において、那須野が原博物館紀要第16号の掲載論文を全て公開した。</p>							
【課題・改善点等】	<p>業務における調査研究活動の時間の確保と計画的な遂行が必要である。調査研究成果の公表のために、今後も紀要の発行及び発行後1年が経過した紀要掲載論文の公開を毎年実施する。那須塩原市で実施している動植物実態調査や地域研究者等と協働・連携を図り、地域の解明に努めたい。紀要の投稿者の確保が課題となっているため、外部への積極的な声掛けを行う。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、研究成果の還元方法は、従来の発表会や講演会に限らず、ICTを用いた発表の場も積極的に活用していく必要がある。</p>							
【外部評価委員 所見】	<p>新型コロナ禍の影響により、地域研究発表会をはじめ研究発表や講師派遣の機会が著しく減少し、研究成果の還元が十分にできなかったのは残念なことである。しかし、所蔵資料の整理や研究調査で収集した資料をまとめることができ、マイナス面ばかりではなかったと理解している。この間に那須野が原博物館紀要第17号を発行したことは意義深く、今後も研究成果の発表の場として紀要の継続に努力すると共にICTの活用を進めるよう期待する。</p>							

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	3年度目標値(5か年)	期間実績合計	2年度目標値	2年度実績	備考
3. 展示							
3-1 常設展示の充実	常設展示の内容や展示資料の見直しを図ります。						現代美術作品の展示(なはくAS10回)、引出し展示(昆虫標本)の入れ替え、考古資料の一部入れ替え
3-2 企画展示の開催	地域または各テーマに対する市民の理解を深める目的で開催し、資料を有効に活用します。	企画展示の開催回数	20回	12回	4回	0回	R1年度縄文展(～4/9)
		企画展示の観覧者数(学校を除く)	90,000人	72,832人	15,000人	71人	H29 30,000人/年 H30～ 15,000人/年
		観覧者の満足度(平均)	90%	95%	90%	—%	集計なし
3-3 企画展示の理解促進	図録の発行、記念講演会や展示解説、ワークショップなどの関連事業を開催し、展示趣旨を分かりやすく伝えます。	図録の発行件数	5件	4件	1件	1件	舞い踊る伝承
		関連事業の参加率	70%	81%	70%	—%	実施なし
		参加者の満足度(平均)	90%	97%	90%	—%	実施なし
3-4 トピックス展の開催	資料を積極的に活用するほか、調査研究によって得られた情報を公開します。	トピックス展の開催回数	55回	39回	11回	10回	
3-5 意向調査	市民の意見を積極的に収集し、ニーズの把握に努めます。	意向調査(アンケート)の実施回数	20回	1回 H30～通年	4回	通年	展示アンケートに意向調査の項目を追加し、通年で実施
3-6 附属施設の展示	附属施設の常設展示の見直しを図ります。企画展を開催し資料を有効に活用します。	黒磯郷土館・関谷郷土資料館常設展示の見直し					黒磯:特になし 関谷:H31.3.31施設廃止
		日新の館企画展の開催回数	25回	5回	5回	0回	H31.3.31施設廃止
【特記事項】	新型コロナウイルス感染症の影響により、企画展示事業は中止となった。また、感染拡大による臨時休館後は、企画展示の代替としてゼロ予算ベースの収蔵資料展示を3回(「日本画」、「昆虫」、「写真」)開催した。令和2年度観覧者総数:6,241人(うち学校見学1,029人)・利用者数5,945人。企画展及び収蔵資料展示(学校を除く)の観覧者数は4,183人で、前年度比22.1%となった。減少の主な要因は、臨時休館(4月10日から6月1日まで53日間)、新規企画展示の中止及び広報活動の自粛等が挙げられる。当初予定していた特別展「舞い踊る伝承」、企画展「あつめてくらべる 化石図鑑」及び企画展「ミュージアム×ミュージアム」は、令和3年度に順延した。トピックス展、なはくアートのスポット及び日本遺産コーナー資料展示は、臨時休館期間を除き内容を一部変更して実施した。						
【課題・改善点等】	令和3年度の企画展示再開に向けて、三密の回避や施設の清掃・消毒等新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、安全な運営体制を構築する。						
【外部評価委員 所見】	令和2年度の展示は、新型コロナウイルス感染症により企画展ができなかったことから、当博物館収蔵資料を用いた収蔵資料展示を3回行った。新型コロナウイルス感染が拡大する中、来館者があったことは、当館の良さであり強みでもある。どの展示においても、展示する資料の選定や展示の方法等工夫がなされていた。 6月2日から8月2日までの収蔵資料展示「日本画」では、高久靄匡や小泉斐などの当博物館で収蔵している那須地区ゆかりの画家たちの作品が展示された。江戸時代末から明治・大正・昭和にかけて那須塩原市等を含め、那須地方の文化指標を見ることができたのではないかと思った。今まで知らなかった画家たちの作品もあったが、作品を通して作家たちとよい出会いができ、楽しい展示であったので今後の企画展への期待をもつことができた。 そして、これらの展示を通して印象に残ったのは、那須地区の文化指標を示す作品の収集と展示の場を考慮することが重要であり、収蔵庫の増設と展示会場の拡張も必要と感じた。						
4. 教室講座							
4-1 講座の実施	研究成果を市民に還元するとともに、入門的なものから専門性の高いものまで多様な講座を開催します。	参加率	70%	58%	70%	—%	実施なし
		参加者の満足度(平均)	90%	96%	90%	—%	実施なし
4-2 教室の実施	博物館ならではの体験を重視し、子どもの興味関心を高める教室を開催します。	参加率	90%	81%	90%	—%	実施なし
		参加者の満足度(平均)	90%	98%	90%	—%	実施なし
4-3 親子体験チャレンジの実施	親子のコミュニケーションを深めるとともに、それぞれが楽しく学ぶことができる事業を開催します。	参加率	90%	75%	90%	—%	実施なし
		参加者の満足度(平均)	90%	85%	90%	—%	実施なし

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	3年度目標値(5か年)	期間実績合計	2年度目標値	2年度実績	備考
4-4 博物館フェスタの実施	市民と協働して、博物館の魅力を広く周知する事業を開催します。	来館者数(延べ)	6,000人	3,500人	1,200人	—人	実施なし
		参加者の満足度(平均)	90%	88%	90%	—%	実施なし
4-5 各種普及事業の実施	ワークショップや研究発表会などの普及事業を開催します。	参加率	70%	70%	70%	—%	実施なし
		参加者の満足度(平均)	90%	95%	90%	—%	実施なし
4-6 生涯学習活動の支援	質問や相談等に応える業務を積極的に実施し、市民の学習を支援します。	相談対応件数	500件	248件	100件	49件	
【特記事項】	新型コロナウイルス感染症の影響により、教室講座事業は全て中止となった。なほリサーチは市民参加型調査のみ実施した。寄せられた情報は118件で、前年度と比べて約2倍となった。市広報による呼びかけと受付方法に電話を追加したことが増加の要因と考えられる。相談対応は前年度と比べ75%に減少した。						
【課題・改善点等】	全ての教室講座事業に対して新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインをもとに、実施方法(会場・定員・回数・内容・受付等)の見直しを図る。セミナーは、ICTを活用した動画配信サービスを導入し、参加形態の多様化を促進する。						
【外部評価委員 所見】	コロナ禍の中、すべての事業が中止となり、実績はないが、今後の活動計画として、コロナ禍の中を見据えての対応を考えていることは大変期待したい。今までの実績が素晴らしいものだっただけに新しい対応もいい反応が期待できると思う。						
5. 地域との連携及び市民との協働							
5-1 市民との協働	自主団体を支援し、市民による教育普及活動を促進します。	市民に活動成果の場を提供します。					エントランス利用2件(田空・栃木水の会)
5-2 地域との連携及び学術的な支援	各種機関等と連携を図り、広範囲な活動を展開します。	連携事業件数	25件	16件	5件	3件	広報、図書館2件
	博物館の資料をもとに、文化財保護や環境保全等に関する活動を学術的な側面から支援します。	支援件数	25件	39件	5件	8件	県RDB2件、市動植物調査2件、市文化財審議会1件、市アートを活かしたまちづくり検討委員1件、市文化財保存活用地域計画協議会1件、大田原市那須与一伝承館運営懇談会委員1件
5-3 学校教育との連携	自主団体との協働により、学校見学で来館する児童生徒に対して、展示案内・体験学習等を行います。	学校来館数(那須野が原博物館)	600校	299校	120校	29校	
		学校来館数(黒磯郷土館)	75校	33校	15校	2校	
	学校と連携して、博物館の資料を授業で活用します。また、要望に応じて職員や専門家を派遣します。	資料貸出件数	150件	91件	30件	27件	ビデオ19件、民具3件、開拓4件、その他1件
		出張授業件数	50件	34件	10件	7件	関谷小1件、横林小1件、大貫小1件、東小1件、南小1件、大田原高校2件
5-4 実習等の受け入れ	博物館実習や生徒の職場体験等を受け入れます。	博物館実習・職場体験件数	—	41人	—	1人	博物館実習1人、マイチャレンジ0人
【特記事項】	<p>《学校見学への対応》 那須野が原博物館では、石ぐら会と協働で新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、小学4年生の見学を受け入れた。小学3年生の見学は博物館・黒磯郷土館ともに中止し、代わりに資料の貸出しや出張授業で対応した。学校見学の利用は29校1,029人(元年度は80校3,430人)で前年度比30%となった。学校が校外学習を控えたことに加え、コロナ対策として学校数や児童数の受入制限を行ったことが主な要因と考えられる。一方、出張授業件数は、中止となった開こん記念祭を除くと前年度から3件増加した。</p> <p>《市民、自主団体による教育普及活動への支援内容》 新型コロナウイルス感染症対策で博物館及び黒磯郷土館の利用が制限されたため、各団体の教育普及活動は実施されなかった。</p>						

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	3年度目標値(5か年)	期間実績合計	2年度目標値	2年度実績	備考
【課題・改善点等】	今後、学校見学は、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、小学3年生の受け入れを再開するなど、受け入れを拡大するとともに、出張授業や資料の貸出を充実させて利用者増を図っていききたい。小学3年生の見学においては、新たな指導要領の内容に沿った体験活動を構築し、利用する学校の満足度向上、及び来館校増につなげたい。						
【外部評価委員 所見】	<p>市民との協働については、成果を発表する場は必要なので、周知を図りながら利用を進めてもらいたい。</p> <p>地域との連携及び学術的な支援については、コロナ禍の中連携を図るのは難しいと思うが、支援件数で5か年の目標値をクリアできたことは大いに評価できる。今後も支援を継続してほしいと願うものである。</p> <p>学校教育との連携については、学校数の減少やコロナ禍での休校など学校の利用が少なくなっている中で、博物館の見学や体験学習が30件程実施された。これは、博物館でこそ得られる実感を伴った貴重な体験の大切さ、社会科や総合的な学習の時間で欠かすことのできない見学・調査活動の重要性を示すもので、コロナ禍での一定の成果と評価できる。また、博物館を訪れるだけでなく、資料を借りての授業で活用することや出前授業を実施するなど双方向性をもった利用についても、今後の多様な方法で連携できる体制を整えていく行く中で重要になってくるものと感じる。</p> <p>実習等の受け入れについては、コロナ禍で実習生の減少、マイチャレンジの中止で成果が上がらないには仕方がないことである。しかし、キャリア教育では、実習は行えなくても「博物館という施設に関わる様々な仕事がある」ということを啓発し、生徒等に理解させることも重要となってきたので、検討が必要となるであろう。</p> <p>現在、学校では児童生徒1人にタブレットPC1台の環境が整ったことから、ICTが利用できる環境や学習環境が整えば、博物館と学校をオンラインでつないでの学習活動も可能となり、利用範囲が広がっていく。あくまで、博物館に来て学習することが基本であると考えるが、今後は様々な活用事例も出てくると思われるので、情報収集に努め有効活用できるようにしていくことが大切である。</p>						
6. 施設の管理運営							
6-1 施設の維持管理	快適な環境の保全に努めます。	保安、清掃及び維持管理業務の実施、計画的な機器の修繕・更新					
6-2 危機管理体制の強化	防災訓練や救急救命講習等を実施し、危機管理体制の強化を図ります。	防災訓練の実施回数	10回	8回	2回	2回	
		救急救命講習の実施回数	5回	2回	1回	0回	
6-3 施設の整備	高齢者、障害者及び外国人等へ配慮した施設の整備に努めます。						実施なし
6-4 収蔵施設の増設	収蔵庫の拡充を図り、収蔵資料の適切な保存に努めます。	収蔵庫の増設					実施なし
6-5 附属施設活動の充実	附属施設(黒磯郷土館・日新の館・関谷郷土資料館)の特徴を活かした活動を展開します。	黒磯郷土館来館者数	7,500人	5,074人	2,500人	577人	
		黒磯郷土館来館者の満足度(平均)	90%	93%	90%	89%	
		日新の館来館者数	8,000人	1,926人	1,600人	—	H31.3.31施設廃止
		日新の館来館者の満足度(平均)	90%	81%	90%	—	
		関谷郷土資料館来館者数	65,000人	26,011人	13,000人	—	H31.3.31施設廃止
関谷郷土資料館来館者の満足度(平均)	90%	96%	90%	—			
6-6 組織運営	組織の適正な人員配置を行い、効率的な運営に努めます。						
6-7 意識改革と資質の向上	研修会等に積極的に参加し、職員的能力開発、資質向上に努めます。						
6-8 広報体制	各種メディア等への情報提供を積極的に行います。また、ホームページを充実し、認知度の向上を図ります。	マスコミ・メディア等の掲載回数	200回	111回	40回	13回	
		ホームページの閲覧回数	550,000回	530,653回	110,000回	80,665回	
6-9 博物館評価	使命、方針及び中期目標に基づいて評価を行い、博物館活動の改善に努めます。						

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	3年度目標値(5か年)	期間実績合計	2年度目標値	2年度実績	備考
【特記事項】	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、4月10日から6月1日まで那須野が原博物館及び黒磯郷土館を臨時休館した。再開館後6月30日までは観覧者を栃木県民に限定し、研修室・会議室等の利用を停止した。感染症対策として、サーモグラフィーカメラや飛沫防止パーテーション、アルコール消毒液の設置、清掃・消毒の徹底、ハンズオン展示(資料及び標本)の撤去、入場制限(同一時間内30人まで)等を実施した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染防止のための機器の配備や消耗品の購入、空調機の修繕を実施し感染の措置を講じた。旧日新の館は、博物館資料の一時的な仮収蔵施設として利用し、旧関谷郷土資料館内は、関谷もみじの郷運営協議会への貸与を継続している。施設の維持管理として、博物館の展示室の防火扉、多目的トイレの便座、空調機温湿度センサ交換などを実施した。また、博物館庭部の立木の伐採、剪定を行った。館内施設の利用率向上の一環として体験学習室に設置した簡易的なキッズスペース「なはくルーム」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため閉鎖した。収蔵施設の増設については、実現にはいたっていない。</p> <p>人員では、再任用職員(1名)の退職、学芸職員(臨時職員・1名)の削減に加え、5月の事務職員(正職員・1名)の異動により、3名の減少となった。メディアの掲載件数は、昨年度に比べ57%となった。教育普及事業の中止が主な要因と考えられる。</p> <p>ホームページ閲覧回数は、前年度比62.5%で大幅に減少した。特に5月及び7～9月の行楽シーズンの減少が顕著であった。臨時休館を機に収蔵資料をツイッターで紹介する「なはくの収蔵庫」の取り組みを開始し、3月末までに計33回配信した。この取り組みは新聞にも取り上げられた。ツイッターの閲覧件数は227,607件。</p>						
【課題・改善点等】	<p>新型コロナウイルス感染症のため救命講習が開催されず未実施となってしまった。来年度は新入職員等を対象に講習会への参加を勧める。施設設備については、冷温水発生器において経年劣化による大規模修繕が必要である。また、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行った上での教室講座等実施、あるいはICTを活用した新たな事業の展開を検討する必要がある。また、登録者にダイレクトに情報を配信する「みるメール」を積極的に活用し、広報体制の拡充を図りたい。</p>						
【外部評価委員 所見】	<p>当協議会が提案した附属施設の統廃合がスムーズに行われ、各施設の特長を見出し再出発ができた。当博物館及び関係者のご苦労とご尽力に感謝し、今後の成長に期待したい。また、新型コロナウイルス感染症対策でも、来館者に対する迅速かつ十分な対策・設備対応がなされたことを評価したい。</p> <p>文化財保護法の改正による地域連携や地域活用に寄与する博物館機能は重要である。日本遺産認定の中心施設としての当館の役割は大きい。「那須塩原市歴史保存活用地域計画」も策定に入った。さらには、道の駅としての機能を持つ当館は、多岐にわたる施設管理や環境整備を必要とする。昨今の集中豪雨や突風に対する危機管理、コロナ禍における施設の安全対策・整備等、これまでとは異次元の施設管理機能の整備・計画が求められる。施設整備の予算化は当然ながら、それぞれの課題に応えるための人的配置も不可欠である。是非配慮願いたい。</p> <p>今や、全世界的な自然環境の変動期にあたって予測不可能な大災害が恒常的に起きる状況下、貴重な地域資料が失われる危機にある。さらには、地域意識の変容で、地域文化遺産の保存・継承が図られず文化財消失の問題も起きている。非常・平常を問わない文化財の保存・記録が問われているのである。これまでも提言し続けてきたが、当館が果たしている地域文化の保存・継承の役割や機能を持続し生かすためにも、収蔵庫増設は急務である。早急の実現を強く要望する。</p>						
【外部評価委員 総合所見・指摘事項】	<p>令和2年度は、コロナ禍において未曾有ともいえる事態となり、国家・世界において対策が迫られ、国家と市民という問題が突きつけられることとなった。生命・経済が叫ばれたが、文化という面においてはどうかは、検証すべき問題である。その一つとしての博物館のあり方も、社会で考えるべきことと思われる。一施設として的那須野が原博物館が、予算・人員の面で多くの制約を課せられたことは、このたびの当評価に表われているとともに、制約の中で職員が進むべき方向を模索する状況が窺える。「資料の収集・活用」においては、備品購入費の減額による事業の継続という使命に対する制約は、問題視されるものである。一方で、資料の登録件数の増加は、コロナ禍において職員の事業遂行の表れであり、大いに評価するものである。「調査研究」においては、発表の場が失われる場面が多々あったが、『那須野が原博物館紀要』第17号を発行できたことは、継続性という側面で評価したい。また、学術情報検索サイト「J-STAGE」に紀要を継続的に公開していることは、那須野が原博物館と職員等の学術に対する資質の向上を促進する上で重要であり、継続されたい。「展示」については、企画展事業が予算削減のため中止となったことに対して、結果としてどうであったのか。館の閉館があり、代替的展示の実施は苦肉の策であり、ゼロベースでの展示事業の結果であるが、所蔵資料の活用という面では評価できるが、令和2年度の特別展・企画展が失われたことは、残念である。「教室講座」についても、全て中止という状況であったが、当年度は中止であったが、市からの通達を含めコロナ禍での教室講座のあり方を模索し、3密を回避する方法に時間を要したこともあったと思われる。今後には生きると思われる。「地域との連携及び市民との協働」については、学校見学において、子どもたちの「学習と生命の保証」という観点から、博物館及び石ぐら会の皆さんの苦心が推察される。「施設の管理運営」では、コロナ禍において感染防止の施設運営は大変な荷重であったと思われるが、今後も起こりうる事態に対して記録化し次代に引き継ぐ用意を怠りなきようお願いしたい。その中で、「なはくの収蔵庫」の取り組みは、職員が市民に伝える続ける重要さを認識している結果と考える。いかなる事態においても、発信し続けることの意味を感じた。施設の管理運営で指摘した所見に表われているように、今後、那須野が原博物館の位置は、さらに重要度を増して行くものと思われる。人的確保と資料の保全是最重要課題であり、その中でも収蔵庫の増設は急務であることは今まで述べてきた通りである。博物館が市民に認知される上で、那須野が原博物館の内部充実とともに、外に向けての認知度の向上に今後も力を注いでいただきたい。博物館が市民にとって必須な施設であるために。</p>						
【博物館の対応】	<p>令和2年度は、コロナ禍で企画展示及び教室講座のほとんどが中止となる状況下において、資料の収集や調査研究といった事業が実施できた。また、コロナ禍でもできる事業についても模索をし、SNSを活用した情報発信について、「なはくの収蔵庫」の取組みも行った。今後、コロナ禍での感染症対策を講じての事業の実施がしばらく続くと思われるので、感染のリスクを避けたやり方で事業を実施がすることが重要である。調査・研究においては、紀要の発行を継続的に行うことで、資料の記録化を継続していくとともに成果を市民に還元することが重要と考えている。調査については、各分野ごとに個々に進めているのが現状</p>						

中期目標の項目	中期目標の内容	評価指標	3年度目標値(5か年)	期間実績合計	2年度目標値	2年度実績	備考
	<p>である。市民に直接的に関わる教育普及事業においては、企画展が全て中止となったことで、収蔵資料展示を実施し、資料の活用を図るとともに来館者に少しでも楽しんでもらえるようにした。</p> <p>博物館関連団体の中には、コロナ禍で活動を控える団体や個人的に団体の活動を控える会員がみられたので、団体の活動の活性化等が急務となってきている。学校見学の対応については、感染症対策を実施しながら小学4年生のみの受け入れを実施したが、受け入れる学校数を制限するなど限定的な受け入れにならざるを得なかった。学校見学におけるコロナ対策の方法がある程度固まってきたことから、受け入れる学校数を増やすことは可能になってきている。小学3年生については、資料の貸出しや出張授業で対応したが、一定程度の需要はあったことから、今後充実を図る必要がある。</p> <p>現在、新収蔵庫は財源確保の問題から早期の着手は難しくなっていることから、現在は収蔵庫のスペース確保を随時実施しているが、根本的な解決には至らないことから、収蔵庫建設に向けた方向付けをしていきたい。また、博物館の人員体制についても十分なものではないことから、人員の充実についても要望をしていきたいと考える。</p>						

<p>外部評価委員 令和3年度那須塩原市那須野が原博物館協議会委員 磯 隆幸 金井 忠夫 高根沢広之 後藤 英雄 木村 康夫 川島 勝子 杉田 智生 松村 雄 千葉 昭彦 君島 章男</p>
--